

# のびのび乃木っ子

乃木小学校特別支援教育部だより  
令和5年9月28日

## 低学年の読み書き支援プロジェクト

7月のお便りでは、1年生の平仮名学習についてお伝えしました。学習をしていく上で基礎となる平仮名の読み書きを習得することはとても重要です。そのため、乃木小では、低学年に対し

**1年生** . . . . **平仮名ぐんぐんプロジェクト**

**2年生** . . . . **読み書き名人プロジェクト**

と名付けた実践を行っていますのでご紹介します。

### 1年生：平仮名ぐんぐんプロジェクト

1年生は、よく見る力・よく聞く力が育つ時期です。そこで、このプロジェクトが大事にしているのは「読み書き計算に毎日楽しく触れる」ことです。

具体的には

- ・平仮名ぐんぐんプリント（算数ナンバーライン、文字さがしなど多種類）をどんどん行う
- ・「聞く見る書く考える」ための土台となる**体を育てる体操**を行う
- ・「ぴょ」「っ」「きゅう」などの**特殊音節**と呼ばれる文字や言葉は、動作化や視覚化を通して学ぶ
- ・アプリやカード、またいろいろな感覚も使った指導を組み込む
- ・松江市の**平仮名アセスメント**をはじめ、指導と評価を連動させていく等を行っています。



### 2年生：読み書き名人プロジェクト

2年生は、1年生でつけた力をより確実にしていく時期です。文字と音が早く合うこと、そして言葉のイメージが広がっていくことを目指しています。

具体的には

- ・給食の準備時間の**ランチタイム教室**の実施  
（当番でない児童を対象に、教室横の空きスペースでクラスごとの10分間の指導）
  - ・読み書き名人プリントをどんどん行う
  - ・夏休み中の**ワークショップ**の実施
- 等を行っています。



3年生になるとローマ字も学習しますし、理科や社会も始まります。新出漢字も一気に増えてきます。低学年のうちに、漢字も含めた文字の読み書きが自動化し、100までの数量感覚がつかめるように、このプロジェクトを基盤に日々の指導のさらなる充実を図っていこうと考えています。

また、文字の力をつけていくためには「語彙力」も必要です。語彙力を増やすには読書が有効ですが、読みが苦手な子どもは読書を避ける傾向もみられます。そうすると語彙力がなかなかつかないという悪循環

環に陥りがちなので、学校では朝の読書活動に対しても様々な形態での「読書」ができるように工夫を重ねているところです。

## ネットやゲームとの付き合い方

ここからは話題を変えて、デジタルでのゲームやネットとの付き合い方について考えます。

小学生でも日々の生活で携帯電話やタブレット端末などを使うようになってきたので、いかに有効に使うかということが現代の課題かもしれません。

スマホやタブレットなどのデジタルコンテンツはとても魅力的です。指一本で情報が得られる手軽さに加え、ゲームや動画などは短い時間や移動中でも触れることができ、いわゆる「暇をつぶす」手段としてまたちょっとした気分転換の方法としても役に立ってくれることでしょう。

一方で、「自分自身をコントロール」することも同時に求められるアイテムであることを私たち大人は実感しています。ところが子どもはこれが難しいのです。なぜかというと、発達途上である子どもの「我慢する力」は大人より弱く、まだ「楽しいこと」が優先される時期だからです。

さらに、把握できないネットやゲームの世界では、例えば

- ・文字によるチャットや音声によるボイスチャットでの暴言
- ・ゲーム内の競争の激化、勝ち負けへのトラブル
- ・課金など金銭が絡むトラブル

などの厄介な問題も起きています。

では、親としてどのようなスタンスを取ればよいのでしょうか？

児童精神科医の関正樹ドクターは、以下のような3つの「**NG**」について述べておられます。

- ①ゲームと成績（勉強）を結びつけて話す
- ②ゲーム機やコントローラーを隠す
- ③ゲームについての約束を親主体で決める

その上でもなかなか特効薬は見つかりません。しかし、やはり心掛けておきたいこととして

- 子どもと一緒に「家族間の契約として」ルールを定める（時間・場所・内容・金銭…）
- 子どもが守れるシンプルなルールにし、それ以外は基本的に言わない
- ルールを決めたら、「親が守る」姿勢を示す
- 知識や興味に絡むことがあれば、それをリアルの世界でも調べる、一緒にやってみる
- 子どもと一緒に遊んだり、子どもの世界に興味関心を向けたりして孤独にしない

などが識者により語られるところです。

また、「ゲームを1時間したら、同じくらいの時間外に出て歩いたり運動したりする」ことで脳や身体のリフレッシュを図れるとよいですね。

（文責：吉野晃子）

### 【参考資料】

「読み書き障害のある子どもへのサポート」2012 河野俊寛 読書工房